この光 北へ届け

韓国 原爆残り火で「平和」

北朝鮮へ向け「ＰＥＡＣＥ」のメッセージを発信する在韓被爆者ら＝韓国・陜川の原爆被害者福祉会館で４日午後７時ごろ、吉沢武彦さん撮影

韓国南部の町、陜川（ハプチョン）で4日夜、在韓被爆者らが、広島原爆の残り火「平和の火」をともしたキャンドル約200個で「PEACE」の文字（縦1・8メートル、横3・6メートル）を描いた。砲撃事件で関係が悪化している北朝鮮に対するメッセージといい、「隣国同士、助け合って危機を乗り越えたい」と願いを込めた。

大阪の市民団体「キャンドルナイトワンピース実行委員会」が、日韓併合100年を機に計画した。

火は携帯懐炉に移して運んだ。陜川は在韓被爆者が多く暮らす。趣旨に賛同した被爆者約60人が集まり、キャンドルでメッセージを描いた。実行委の吉沢武彦代表(32)は「北朝鮮への報復を求める声が上がる中、苦しみ続ける被爆者が平和を呼びかけたことは大きな意味がある。戦争の道だけは選んでほしくない」と話した。

平和の火は、兵士が、原爆で亡くなった叔父の遺骨代わりとして福岡県星野村（現八女市）へ持ち帰り、ともし続けられてきた。陜川に運ばれた火は今後、日韓各地に移される。日本では冬至（22日）前後に全国57カ所で開かれるキャンドルナイトで使われる。

【林由紀子】